

2022年8月12日
 株式会社 NTT ドコモ 四国支社
 NTT コミュニケーションズ株式会社

四国初 「2022 よさこい鳴子踊り」のテレビ生中継でモバイル映像伝送を実施！ ～「docomo MEC」×「Zao-X」×5G 通信で生中継の幅が広がる～

株式会社NTTドコモ四国支社（以下、ドコモ）と、NTTコミュニケーションズ株式会社（以下、NTT Com）は、株式会社高知放送（以下、高知放送）の協力のもと、2022年8月10日（水）と8月11日（木）に開催された「2022 よさこい鳴子踊り特別演舞」のテレビ生中継において「docomo MECTM」^{※1}、株式会社ソリトンシステムズが提供するモバイルエンコーダー「Smart-telecasterTM Zao-X」^{※2}（以下、「Zao-X」）およびドコモの5G回線を活用した、四国初となるモバイル映像伝送の実証実験（以下 本実証実験）を実施しました。

本実証実験では、四国に新たに追加された「docomo MEC」の新基盤を利用することで、リアルタイム性の高い通信が求められるテレビ生中継においても、モバイル映像伝送が可能であることが実証されました。



モバイル映像伝送を活用したカメラマン1名での生中継



従来の有線ケーブルによる4名体制での生中継

1. 背景

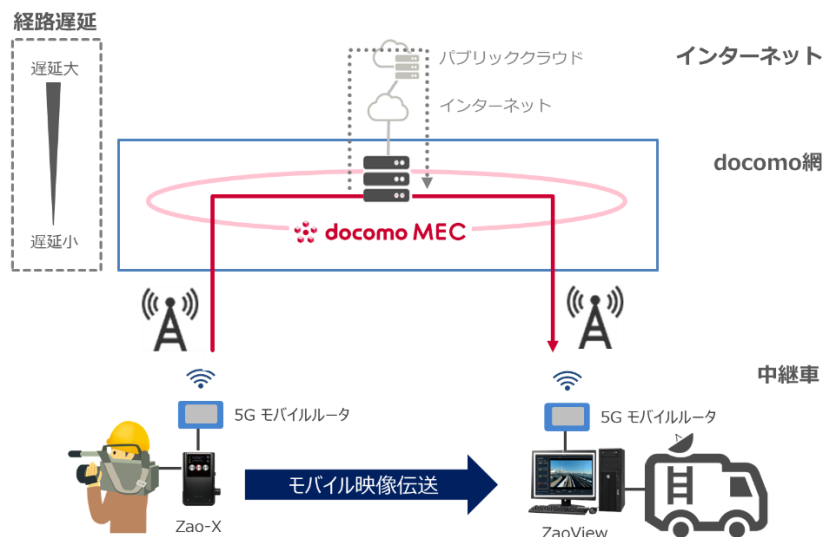
近年、SNSを活用したリアルタイムの情報発信が活発化しており、テレビにおいても視聴者のニーズに応えるため、生中継によるリアルタイム性の高い情報提供が求められています。しかし、テレビ生中継を行うためには、安定かつ高速な映像伝送環境を構築する必要があるため、中継車と中継カメラ間の有線ケーブルによる接続や、敷設工事を伴う光回線接続が必要となり、生中継ができる場所に制限がありました。

2. 本実証実験の概要と成果

本実証実験では、「2022 よさこい鳴子踊り特別演舞」の模様を、中継カメラからモバイルエンコーダーである「Zao-X」、「docomo MEC」を経由し、中継車までの区間の映像伝送を5G通信にて実施しました。

本実証実験の仕組みを活用することにより、テレビ局は、これまで有線ケーブルでは不可能であったカメラのポジショニングや、制限のない移動しながらの撮影が可能となり、より迫力のある映像を提供

できるようになります。また、「docomo MEC」が提供する通信経路を最適化できる機能により、よりリアルタイム性の高い映像伝送を実現しました。高知放送の技術部門の方からは、「機材も軽量・コンパクト、カメラマン1名で手軽に中継映像が届けられた」とコメントをいただき、本実証実験の有効性を確認できました。また、視聴者にとっても生中継できる場所が広がることで、迫力ある映像をリアルタイムに視聴する機会が増えることが期待されます。



3. 今後について

今後もドコモとNTT Comは、「5G×MEC」を通じた新しい価値を創出し、全国のワークスタイル・トランスフォーメーション（WX）や地域・社会のデジタル・トランスフォーメーション（DX）に貢献することで、お客さまの生活がより便利で、豊かなものになるよう努めてまいります。

※1 「docomo MEC」は、5Gの可能性を広げる、国内初の「MEC」（Multi-access Edge Computing）サービスです。5Gの特長を最大限に活用できる「MEC」（Multi-access Edge Computing）により、リモートをよりリアルに、リアルを楽しく・快適にする、最先端ソリューションを創出できます。日本全国9か所に拠点があり、地域の課題解決に寄与します。

（参考）「docomo MEC」 <https://www.NTT.com/business/services/docomomec.html>

※2 「Smart-telecaster Zao-X」は、携帯電話回線を利用して高画質の映像をライブ中継するシステムです。独自の圧縮伝送技術である「RASCOW」を「RASCOW2」へと進化させ、映像伝送最大の課題だった遅延の問題も解消、超短遅延の映像伝送を可能にしています。

（参考）「Zao-X」 <https://www.NTT.com/business/services/stzx.html>

* 「docomo MEC」は、株式会社NTTドコモの商標です。

* 「Smart-telecaster」は、株式会社ソリトンシステムズの登録商標です。